

新任大使モーリス氏及び國民の親善を以て來れり。日本は機関音楽隊として、新聞通信員の一群に對し、「子が日本にて、本國人として、米國の爲めに役に立たんことを目的とするのみならず、進んで日本人の心に精通し、日本人の態度を予の政府及び人民に對して述べたりといふ。極めて簡單なる挨拶に過ぎざるが、駐外使節としての心懃れは此の語に盡きた。」代表せん希望を以て來れり。日本は、米國關係の如き、多少の誤解と不安とが殆んど總ての場合に附き経ふて、今後如何に當なる態度なりといふべし。豫期して最善の努力を爲すことにして、單なる一市民、一百民の大便は單に此爲めに日本に來りたるには非ずして、更に進んで日本を研究し、日本人の意志と希望と感情とに精通し、米國政府に對し、日本人の志意と希望とを理解して同情を有する者である。日本は親善の理想を説くよりも、人の肺に入りて、共鳴を感ぜを生ずべきものなり。日本は、そのいふこそ自然に同情を喚び起し、同情は好意を以て表現するに導く。日本人的の志意と希望とを理解して同情を有することにすれば、好意を以て日本の人々の要求を、米国人に取次ぐことを得るに至り、其處に始めて日本に寄與せられたる譯するが、殊に前大使モーリス氏及び國民は其程度に於てこそ多少の相違はあれ、悉く斯くして兩國の親交に寄與せられたる譯するが、大體ガスリー氏に對し、日本國民は甚深なる敬意を表し、感謝

（軍縮案報告）

（外交總長華府會議に出席）

（鐵道罷業說）

（佛特使内定）

（本紙は、ヨコハマスペック銀行の宣傳紙です。）

◇ 南海の波、いとも穩かに御石艦上の御英姿

皇太子旗、朝靄に燐然と輝き、延々八浬に亘る聯合艦隊の裡に鳥羽沖へ莊嚴なる奉迎裡に鳥羽沖へ

内大臣、大蔵、陸軍、海軍の聯合艦隊は八月三十日午前十時東宮殿下の御召艦を九州の南端に奉迎したるが三十里場内司令官は北上中の小栗第三艦隊司令官に對し、

「聯合艦隊有明灣口非能干三

十海里的地點にて殿下を奉迎す

隊從ひ第二、第三、第二水雷戦隊を右舷に隨伴し

は三十一日拂曉有明灣接觸船

扶桑、先鋒に第三、戦隊の金剛、第四、戦隊從ひ第二、第二水雷戦隊を右舷

に隨伴し

は北上して豊後水道に向ひたる

鳥羽沖に向ひ航進し暫くして

各艦隊の距離は一萬米突くなれ

波は平穏なり御召艦は

聯合艦隊は變進して御召艦の

左舷に見通し滑るが如く

鳥羽沖に向ひ航進し暫くして

各艦隊の距離は一萬米突くなれ

<p

